

## 国際歯科保健医療学の講義に対する学生の反応

中 村 修 一

### The analysis of lecture impression of dental faculty student about international dental health.

Shuichi Nakamura

キーワード：国際歯科保健医療、国際協力、歯学部講義

#### はじめに

途上国における国際保健医療協力は国際人道主義に基づく先進国の責任であり、歯科のはたす役割は大きい<sup>1)</sup>。しかし、歯科保健医療協力の実態は充分とは言えない。ちなみに日本国際保健医療学会総会において過去5年間（2001年～2005年）でシンポジウム、ワークショップ、ポスター、講演発表は901題あるが歯科領域の発表は42題であり、全体の4.7%と多いとは言えない。今後、広く歯科関係者の国際保健に関する関心と協力が求められる。その中で歯科界の将来を担う、歯科学学生への啓発活動が必要と思われる。筆者はネパールでの歯科保健医療協力の経験<sup>2, 3)</sup>を背景として、2005年秋に某大学歯学部で国際歯科保健の特別講義を1回実施した。歯科学学生が一回の講義にどのような感想を持ちどのような変化したか、講義のレポートを分析した。

#### 「国際歯科保健医療」講義

講義は2005年10月某大学歯学部3年生を対象に実施した。筆者は学外講師であるので、この講義が学生との初めての出会いであり、講師に対する潜在概念は無い。

講義は液晶プロジェクターを用い、使用したスライドは110枚である。講義の内容は

1. 途上国と先進国の比較と国際援助。
2. 国際保健の現状。
3. ネパールの医療と保健衛生指数。
4. ネパールにおける歯科保健医療活動の概要<sup>2)</sup>。
5. 現在のプロジェクト<sup>4)</sup>。
6. 17年間の活動評価<sup>5)</sup>。
7. 国際協力の問題点と対応。
8. 参加者の感想と自己発見、自己啓発。
9. まとめ。

であり、講義時間は90分である。

当該大学では学生に講義前の期待度と講義後の満足度を学生の評価として提出させている（51人提出）。これに加え学生の講義感想文を提出するよう依頼した。その結果、40人の学生から感想文を得たので分析を行った。

#### 【著者連絡先】

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1  
九州歯科大学国際交流・協力室  
Office of International Dental Health, Kyushu Dental College  
中村修一  
TEL&FAX : 093-583-6132

学生の講義前の期待度と講義後の満足度について  
講義前後の評価は51人の学生が提出した表—  
1. 講義前の期待度は5点満点で3点が一番多く43

人であり最高の5点は1人であった。100点満点に換算した平均点は58.0点であった。これに対し講義後の満足度5点が一番多く36名、4点は12名であった。100点満点での平均点は92.9点であった。歯学部3年生の講義前の期待度が58点であったことは、国際協力に関する知識と興味が少ないか、講師の講義に対する興味が少ない事が考えられる。講義後の満足度が92.9点と高かったのは学生の国際保健に対する関心度と理解度が潜在的に高いことを示している。

表1 講義前の期待度と講義後の満足度

| 期待度 |     | 満足度 |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 点数  | 人数  | 点数  | 人数  |
| 1点  | 2   | 1点  | 0   |
| 2点  | 4   | 2点  | 0   |
| 3点  | 43  | 3点  | 3   |
| 4点  | 1   | 4点  | 12  |
| 5点  | 1   | 5点  | 36  |
| 平均値 | 2.9 | 平均値 | 4.6 |

### 講義感想文の回答分析

表2に示すように40人から得た講義感想文を5項目について回答解析を行った。

まず講義の内容を理解しているかについて、講義の内容要旨を的確に感想文に記載している学生は30人75%であった。学生は国際協力に関する講義の内容を理解していると考えられる。講義を聴いて国際協力に関心や興味をもったと感想を述べた学生は33人82.0%いた。講義前の期待度が58%であったことから、学生に適切な説明を行うと関心や興味をもつ学生が多いことがわかった。

歯科学生として自分の将来について国際協力を含め選択肢が増えたと記載した学生が14名35.0%いた。講義を聴いてネパール歯科医療協力隊に参加したいと述べた学生が7名17.5%、歯学の勉強に励み実力をつけ歯科医師となったら参加したいとする学生が7名17.5%いた。いずれにせよ参加したいと述べた学生は14名35.0%いることがわかった。

表2 講義感想文の回答分析

| 項目             | 人数<br>(40人) | %    |
|----------------|-------------|------|
| 講義の内容を理解している   | 30          | 75.0 |
| 国際協力に興味を持った    | 33          | 82.5 |
| 歯科の将来に選択肢が増えた  | 14          | 35.0 |
| 参加したい          | 7           | 17.5 |
| 卒業後実力をつけて参加したい | 7           | 17.5 |

学生レポートから興味ある感想文をピックアップすると、講義を聴いて非常に為になった、驚いた、感動したと感じ、今までの歯科に関する考え方が変わった、まず行動することが大切と思った。日々惰性的な学生生活を見直し目標を持って行きたいと考えた、何も考えずに生きて行けるか一つでも熱く語ることが出来るような生き方がしたい。歯科医師となって自分の利益だけを求めて生きることでもできるが、社会的責任を担って生きて行ける可能性があるとして現在の自分を評価し、将来を考える動機を得たとの決意を感じるレポートが多かった。

高校時代まで国際協力に興味があったが歯学部入学し歯科で国際協力は無理と思っていたが、講義を聴いて希望が出た。歯学部に入學し将来の選択肢を大学に残るか臨床医として開業するしかないと狭く考えていたが、国際協力など自分で開拓できる可能性を強く感じたとして述べている。

そして、実際に国際協力に参加したいとの熱い希望があるなかで、参加したいが勇気がない、将来の可能性をもってとりあえず大学での勉強に勤しみたいとの考えも多かった。

### まとめ

歯学部に入學して、多くの教官から歯科の将来は暗いなど、明るい希望のある講義を聴くチャンスが少ない中で、歯科領域の国際貢献の可能性を聞き、興味を持った学生が82%もいたことは、歯科学生の感受性が強いことを示している。また、国際協力についてはネパール歯科医療協力隊の報告書の新人感想文<sup>6,7)</sup>などからみても、小中高校時代から興味を持っていた学生が多いが歯科と国

際協力を結びつける情報やコミュニケーションが少ないことも現実であることがわかった。

今後歯科の国際貢献について、歯科学生は情報を得ると真摯に受け止め関心と将来への希望を見いだすことから、学生への的確な情報を提供する必要性を感じた。

#### 文 献

- 1) 中村修一，安部一紀（分担執筆）：なぜ医師たちは行くのか？国際医療ボランティアガイド，羊土社，東京，2003.
- 2) 中村修一編集：国際歯科保健医療学，医歯薬出版社，東京，2003.
- 3) 中村修一：健康プロジェクトの計画・実行・評価について－ネパールにおける歯科保健医療協力の現場から考える－，ヘルスサイエンス・ヘルスケア 1 (1)，9-13，2001.
- 4) 中村修一，安部一紀：途上国の地域歯科保健開発パイロットスタディーネパールにおける16年間の活動－，ヘルスサイエンス・ヘルスケア 4 (1)，9-13，2001.
- 5) 小宮愛恵，深井穂博，中村修一ほか：ネパールにおける口腔保健専門家の養成プロジェクトに対する評価，九州歯会誌 5 (4) 13-18，2003.
- 6) 中村修一編：ネパール歯科医療協力17次隊報告書－地域歯科保健開発を目指して－，ネパール歯科医療協会の会報，北九州，2004.
- 7) 中村修一編：ネパール歯科医療協力18次隊報告書2004－現地口腔保健専門家による自立型歯科保健の展開－：ネパール歯科医療協会の会報，北九州，2005.

---

## The analysis of lecture impression of dental faculty student about international dental health.

Shuichi Nakamura

(Office of International Dental Health, Kyushu Dental College)

Key Words: International cooperation, international dental health.

The lecture was given on international health in the dental college in the autumn of 2005. The report of the student was analyzed after the lecture.

The expectation before the lecture of the student was 58%. The satisfaction after the lecture of the student was 92.9%. The students who understood the lecture and described in their report were 75.0%.

After the lecture, there were 82.0% students with the interest in the international cooperation. There were 35.0% of students who explained that they discovered a new field to get engaged after the graduation. There were 35.0% of students who replied that they wanted to participate in the project of Nepal.

It was thought that to lecture on the international contribution to the student of faculty of dentistry is worthwhile.